

ヤマホトトギス *Arcuatula japonica* (Dunker)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部の水深 5–10 m の砂泥底より生貝が採集されたが、個体数はきわめて少なかった (木村,1996)。その後の調査でも死殻さえ採集されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 20 mm。後方に広がる長方形の扁平な貝で、殻は非常に薄い。緑褐色の波状の小班が全面にある。殻皮は平滑で光沢が強い。



南知多町日間賀島南沖水深 10m(ドレッジ), 1995 年 3 月 15 日,  
木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

1995 年に三河湾湾口部の潮下帯の砂泥底より小型の生貝が採集されたが、個体数はきわめて少なかった。またそれ以降、生貝はおろか死殻も採集されていない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、国内では房総・能登半島～九州、沖縄島まで分布する (山下・木村, 2012)。フィリピンから *Arcuatula perfragilis* (Dunker) が報告されている (Poppe, 2017) が、本種と同種の可能性がある。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも著しく減少していると考えられ、現在は危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

山下・木村 (2012) で図示された標本は本種ではなくノジホトトギスである。ここに訂正する。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3–19. 全国高等学校水産教育研究会.
- Poppe, G.T. 2017. Philippine Marine Mollusks Vol. V. 628pp. ConchBooks, Germany.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.
- 山下博由・木村昭一, 2012. ヤマホトトギス, p. 106. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)